

24年6月1日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2013年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人 青少年の自立を支える埼玉の会
自立援助ホーム 夢舞台

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

生活環境の改善

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

埼玉県内の入居依頼件数が増え続け、現状ではそのニーズに応えることができない状態となっています。自立援助ホームを必要とする子どもたちのために、利用者の居室を増やす必要があります。高齢児童の緊急一時保護に対応する役割も期待されています。

また、夢舞台を利用した子どもも13人となり、今後も更に増え続けていくことになります。

新たに生活を始めた退寮生を何人も見送って参りましたが、とても安定した新生活とは言えず、孤独を伴うアパートでの生活、薄氷の上を歩くような同棲生活、仕事での失敗が許されない住み込みでの生活など、ギリギリの生活を余儀なくされてしまうことがほとんどです。自立援助ホームは、アフターケアの事業として子どもたちの生活を守る責任があります。しかし、現状の夢舞台には、緊急時の部屋が用意できない状態になっており、もしもの時に対応することが困難となっております。子どもたちの失敗を保障したうえで、再度自立へのチャレンジを可能とする環境が望ましいと考えています。

そこで、現在利用していない2階のキッチンスペースの改修工事をし、狭い空間ではありますが緊急時用の居室を確保できるよう考えております。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

利用者居室の増築および退寮生の緊急時用個室の確保

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

首都圏の物件特性として子どもの生活居室以外の居室を確保することが極めて難しいという現状があります。このたび、わが夢舞台では居室の必要性を訴えプロジェクトを実施することができました。

期待している効果としては、助けて欲しい時に迎えられる部屋があることで子どもたちも社会でのチャレンジの機会が格段に増えることやOB・OGの里帰りなど自立援助ホームの根本ともいべきアフターケア事業の大きな前進を踏み出すことが出来るということです。特に今回のプロジェクトでは緊急性の強い女子の居室を設けることとしました。引き続き、アフターケア事業としての必要性を訴えていくことが出来ればと思っています。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

4畳に満たない小さな部屋ですが、SOSを出して来た時に迎えることのできる個室が用意することが出来ました。

子どもたちにとって助けてと言える場所と空間があることは、大人たちにとっても気持ちにゆとりを与えることが出来るように思います。

毎年少しずつ退寮生が増えていく中で細くも長く繋がりを保ち、応援しサポートできる場所でありたいと思います。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり

改修前① (旧 2F キッチン)



改修後①



改修前②



改修後②

